



「気象のはなし」

～どうして、雨はふるの?～

理科 総合

～どうやって、天気予報をつくるの?～

- (1) ねらい
- ① 気象庁の仕事を学ぶことを通して、天気の変化の仕方など、気象への考えをもつことができるようにする。
 - ② 普段テレビやラジオで知る天気予報は、どの様にして作られているのか学習し、気象への興味・関心を高める。

- (2) 対象
- ・小学4～6年生、中学生
(学校防災を担う先生に対する出前講座、
大雨に備えるワークショップも実施しています)



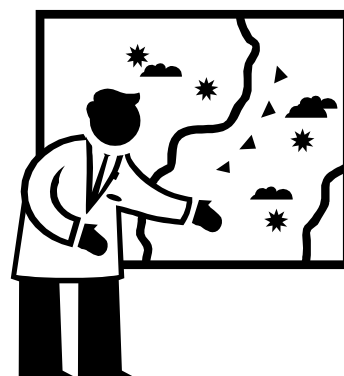
- (3) 講師 東京管区気象台職員

- (4) 形式
- ・所要時間 1単位時間 (原則平日対応)
 - ・クラス単位または学年単位で教室や理科室、体育館、集会室等に集まり、講師による講話を聞く。

気象庁マスコット
キャラクター
はれるん

- (5) 内容 「気象台職員による出前授業」として、講義を行う。

- ① 気象について学んでみよう。
例「雨はどうしてふるの?」「冬になるとなぜ寒くなるの?」
「日本の天気の特徴は?」「大気の動きと海洋の影響は?」
 - ② 気象庁ってなにをしているの?
 - ③ 天気予報はどうやってつくるの?
 - ④ 天気予報や気象情報の見方。
- ★そのほか、気象に関する身近な不思議にもお答えします。(どんなことでも申込書にご記入ください。)



- (6) 費用 「交通費実費」

気象庁の事業のため、講演費はかかりません。ただし、講師の学校までの交通費のご負担をお願いします。(詳細はお問い合わせください。)

事後に、児童・生徒の「感想文」を送っていただきますようお願いいたします。

- (7) 申込み 実施日2ヶ月位前まで ⇒ホームページトップページ「申し込みフォーム」か付
講師の方には、当本部から連絡を取らせていただきます。
詳細は、講師の方と学校担当で打ち合わせてください。